

能登半島地震・被災者支援プログラムの報告（第 27 回）

作成：TVAC/CS-Tokyo

■日程：2025 年 1 月 23 日（木）～1 月 25 日（土）

■ボランティア参加者数：8 名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
1 月 23 日（木）	穴水町甲地区兜公民館	19 名
	穴水町諸橋地区諸橋仮設団地	20 名
	穴水町中居地区住吉公民館	15 名
	輪島市町野地区金蔵集会所	18 名
1 月 24 日（金）	輪島市門前地区禅の里交流館	30 名
	輪島市門前地区皆月集会所	20 名
	輪島市門前地区浦上公民館	28 名
	穴水町志ヶ浦地区志ヶ浦コミュニティセンター	21 名

■被災者の声（主なもの）

- ・水害後通れなくなった道路が開通して 10 分で仮設住宅に行けるようになった。安心感がある。
- ・東日本大震災の時は宮城県岩沼市に支援に行った。新しい街を内陸に作り始めると聞いてすごい決断をしたと思った。当時はまさか自分も被災するとは思っていなかった。
- ・公費で家を解体出来ても新築を建てるのに借金をしなければならない。子供に借金を残すくらいなら今の半壊の家を修理しながら住むのがいいのではと悩んでいる。
- ・防災グッズのカatalogを見てただけど、「もう防災食は食べたくない！」って思っちゃった。
- ・みんなで畑で採ったものを持ち寄った朝市や料理教室をしていた。毎年ノートに活動記録を書いていたが、もうやれないのにこのまま持っててもと思い、今日ようやくそのノートを捨てた。見返すと亡くなった方や、外に出て行った方の名前もあって寂しいし辛い。区切りをつける。
- ・2 月に家の被害認定調査がある。主人が入院してずっと連絡できなかった。やっと見に来てもらえる。
- ・4 月から畑でジャガイモを作りたいからから手伝いに来てよ。
- ・リストウオーマーを作ったら若い人が喜んでくれた。
- ・大事にしていた漆塗りの食器を廃棄物の回収車が目の前で粉碎していったのが悲しかった。
- ・仮設住宅で猫を飼ってもいいのだけど、周りを気にして元の家に置き去りにしていく人がある。近所の人が助け合って面倒見てるのよ。
- ・仮設住宅の前の海にイルカが 8 頭いる。（前日にスマホで撮影したイルカの動画を見せていただいた）

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・被災して大変な思いをしている中でも楽しみを見つけようとする姿勢に胸を打たれた。
- ・以前は男性の参加はゼロだったが、今日は 4 名いらっしやった。地元の方々が男性も参加できるように工夫されていることに感心した。
- ・このサロンで友達と会えることを楽しみにされてる方がおり、このプログラムの意義を感じた。
- ・次のステップとして地域の方にもコーヒーを淹れるなどのお手伝いをお願いしてもよいのではないだろうか。

